

## 進捗状況の概要【1ページ】

**東北大学グローバルイニシアティブ構想の目的**

東北大学を中核とする「知の国際共同体」を形成し世界に大きく貢献するとともに、社会のパラダイムシフトを先導し、グローバル時代を牽引する卓越した教育研究を行う真の「ワールドクラスの大学へと飛躍」とともに、「世界から尊敬される三十傑大学」を目指す。

**進捗状況の概要（平成 28 年度まで）****1. 「国際共同大学院プログラム」群の創設と先端的教育研究クラスターの構築**○ **「スピントロニクス」分野をはじめとする国際共同大学院プログラムの開始**

「スピントロニクス」分野では、マインツ大学（独）との間で共同指導学位に関する覚書を締結し平成 27 年度より教育を開始し、「環境・地球科学」分野では、当初予定を 1 年半前倒しさせ、平成 28 年度より教育を開始した（平成 28 年度：2 プログラムに計 29 名在籍）。また、平成 29 年度開始の「データ科学」「宇宙創成物理学」の各分野も学生選抜を終え準備が整うなど、当初計画した 7 分野の開設に向け予定通り進捗しており、「日本学」「機械科学技術」といった新たなプログラム開設の準備も進んでいる。

**2. 国際共同教育の推進**○ **国際共同教育プログラムの推進**

国際共同大学院プログラムのほか、平成 17 年度から開発を進めてきたダブルディグリー、共同指導プログラムを拡充した（平成 25 年度：9 プログラム 38 名参加→平成 28 年度：14 プログラム 119 名参加）。

○ **国際共同教育参加学生への経済的支援**

国際共同学位（ダブルディグリー、ジョイントディグリー等）の取得を目指した教育プログラムへの参加を積極的に奨励するため、プログラム参加学生の奨学金や海外渡航費を支援する「国際共同学位取得支援制度」を独自財源により創設した（平成 28 年度：約 30 名・5,500 万円を支援）。

**3. グローバルリーダー育成の教育基盤整備**○ **魅力ある国際学位コースの充実**

グローバル 30 から継続する英語で学位取得可能な「Future Global Leadership (FGL)」プログラムを新たに大学院レベルで 2 コース設置（全 26 コース）するとともに、国際学士コースについては「グローバル入試」制度を導入し、国内を含め全世界から FGL プログラムに学生を受け入れることが可能となった。

○ **東北大学グローバルリーダー育成プログラム (Tohoku University Global Leader Program : TGL)**

学生のグローバルマインドセットの醸成が着実に進んでいる。グローバル人材育成推進事業から継続する「東北大学グローバルリーダー育成プログラム (TGL)」の参加登録者（平成 26 年度 1,322 名→平成 28 年度 2,562 名）、短期海外研修プログラム「スタディアブロードプログラム (SAP)」の参加学生数（平成 26 年度：285 名→平成 28 年度：330 名が参加）がともに増加した。

**4. 国際化環境整備とガバナンス体制**○ **国際広報センター、国際交流サポート室の設置**

平成 26 年度に国際プレゼンスの向上を目指した「国際広報センター」、外国人留学生・研究者への生活支援のための「国際交流サポート室」を新たに設置するなど国際化環境整備がさらに進んだ。

○ **総長のリーダーシップによる全学実施体制の構築**

本事業の全学的推進体制構築のため「東北大学グローバルイニシアティブ構想推進本部」を設置し、総長リーダーシップ強化の一環として機能別に学内のリソースを結集・最適化するため「学位プログラム推進機構」「国際連携推進機構」など 6 つの機構化された組織による「機能結集型ガバナンス」体制を構築した。

○ **東北大学国際アドバイザーボードの実施**

本事業の外部評価として平成 28 年 11 月に「東北大学グローバルイニシアティブ構想諮問会議（国際アドバイザーボード）」を実施し、海外の学長クラスを含む有識者から本学のこれまでの国際化の取組について高い評価を受けるとともに、更なる向上に向けた実践的な評価・提案があった。

## 特筆すべき成果（グッドプラクティス）【1ページ】

**1. 「教育改革」と「研究力強化」の有機的連携による先進的な教育研究クラスター形成**

総合大学としての教育研究力を強化し国際的プレゼンスを向上させるため、本学の強み・将来性の分析から**教育研究クラスターを構築する9つの重点領域（申請時の7領域に国際展開が急速に進む2領域を加えて拡大）を戦略的に選定**し、本学の学位プログラムを一体的に運営する「学位プログラム推進機構」のもとで、教育改革の核になる「**国際共同大学院プログラム**」をこれらの重点領域で推進している。これまでに「スピントロニクス」「環境・地球科学」分野で開始され、他分野でも開始に向け海外の有力大学との連携が進んでいる。また、研究大学強化促進事業とも連携し、**9領域全てにおいて研究力強化の柱である「知のフォーラム」が開催**されるなど、海外連携大学等の優れた研究者を招聘し共同研究の推進と海外ネットワークの構築を図る取り組みが着実に進んでおり、「**教育改革**」と「**研究力強化**」の有機的連携が図られている。

**2. 受入留学生、海外派遣学生の大幅な増加**

平成28年度（通年）の**外国人留学生数は3,208人となり、平成35年度の目標値（3,200人）を上回る**結果となった。これは、①留学生のニーズを踏まえた国際学位コースの充実、②留学生の戦略的なリクルーティング、③混住型学生宿舎（ユニバーシティ・ハウス）等の住居支援の拡充（定員968人）、④入学前から入学後の受入体制・支援充実等の成果である。平成28年度留学生生活調査では、本学の教育・研究に対し回答者の80%以上から高い満足度が得られた。

また、**大学間協定に基づく派遣学生数も687人となり平成35年度の目標値を上回った**。これは、①短期海外研修プログラム(SAP)の拡充（平成26年度:285名→平成28年度:330名が参加）、②留学準備から帰国後の学習成果の定着に至るまでのサポート体制、③独自財源による海外渡航支援等の成果である。本学では、入学が決定した高校生を対象とした「**入学前海外研修～High School Bridging Program**」を**国立大学として初めて導入**するなど、早期からの学生のグローバルマインド醸成を図っている。

**3. 大学での主体的な学びの転換と教育力への高い評価**

学生の大学での主体的な学びへの転換を目的として、本学では平成14年度より大学入学直後にはほぼ全学生が履修する「基礎ゼミ（約180クラス）」を全学的な協力体制のもとで実施してきた。基礎ゼミに続く「展開ゼミ」についても、文化・芸術分野授業を中心に平成25年度の30クラスから平成28年度は62クラスに拡充した。留学生と国内学生が共に学ぶ「**国際共修ゼミ**」も、**平成25年度の11クラスから平成28年度は34クラスへと増加**しており、**アクティブラーニング及びPBL型・IBL型授業への転換が促進**されている。

こうした本学のこれまでの取組の成果として、**2016年度に公表されたTHE(Times Higher Education)世界大学ランキング日本版で総合順位において2位**の高評価を得た。

**4. 海外ネットワーク、海外拠点の強化・拡充**

平成27年度には「HeKKSaGOn（日独6大学学長会議）」の主催、「**T.I.M.E. (Top Industrial Managers for Europe)**」**年次総会を欧州以外の国で初めて東北大学で主催**した。また、**メルボルン大学（豪）と「戦略的パートナーシップ協定」を締結**し、平成28年度にはベンチマーク訪問調査を行った。得られた知見は、「2030年に向けた東北大学の将来構想」の目標設定や具体的な取組方策に活用した。海外拠点についても、ベトナムのハノイにある貿易大学内に共同事務所（平成27年度）、タイのチュラロンコン大学内に代表事務所（平成28年度）、米国のワシントン大学内に代表事務所（平成29年度）を設置した。コンソーシアムや協定校を活用したグローバルネットワークの戦略的強化で大きな成果を上げている。

**5. 総長のリーダーシップによる重点的な財政支援**

本学はこれまで、政府の支援終了後も本学にとって必要となる仕組みを独自財源等で維持・発展させてきた。本事業も同様に、本学将来構想の基盤となる重要な事業であるという共通認識のもと、本事業の補助金のほか、**総長のリーダーシップにより独自財源（総長裁量経費）を措置し、重点的な財政支援**を行っている（国際化拠点整備事業支援、国際共同学位取得支援、国際交流・留学生業務サポート支援、外国人・女性教職員雇用促進支援経費など、**特に本事業と関連する取組について約5.6億円（平成28年度）を措置**）。